



## 検査情報月報1月号 ▶ 概要版 ◀



2025年1月発行

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、**検査情報月報**を発行しています。

### 横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果（令和6年5月～10月）

▶ 横浜市蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として、市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておく必要があります。

**主な結果 ▶ ライトトラップ法**により22公園で、7属12種11,702個体が捕獲され、最も多く捕獲された種類はヒトスジシマカでした。**人囀(ひとおとり)法**により山下公園3定点において、ヒトスジシマカが計49個体捕獲されました。▶ **ライトトラップ法**によって捕獲された雌成虫10,147個体、**人囀法**によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫45個体について、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの**遺伝子検査を実施し、全て不検出**でした。

### 魚介類中のPCB検査結果（令和6年度）

▶ PCB は生態系の食物連鎖を通じて魚介類に蓄積され、これを食べることによる健康への影響が懸念されています。厚生労働省では PCB について暫定的規制値を設定し、食品への汚染を防止し、かつ低下させるための行政上の指標としています。当所では横浜市内に流通する魚介類について PCB の検査を行っています。

**主な結果 ▶** 令和6年6月及び10月に中央卸売市場本場で収去した魚介類9種10検体について、**PCBの検査を行った結果、全ての検体で不検出**でした。

### 農産物の残留農薬検査結果（令和6年10～11月）

▶ 食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。今回は、令和6年10～11月に収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

**主な結果 ▶ 市内産農産物**については、10月になす6検体、かんしょ(さつまいも)4検体、さといも及びだいこんの根各1検体の計12検体、11月にかき、かんしょ、キャベツ及びだいこんの根各2検体、かぶの根、カリフラワー、こまつな及びなす各1検体の計12検体、合計で24検体の検査を行いました。検査の結果、なす2検体、かき、こまつな及びさといも各1検体から延べ7項目の農薬が検出されましたが、**基準値を超えたものはありません**でした。

### 横浜メディカルダッシュボード（感染症）を衛生研究所HPへ掲載しました。

▶ 横浜市が保有する様々な医療・保健データを、グラフや地図などの方法により、**視覚的にわかりやすく表示**しています。 <https://iryoo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/infectious/>

